

候。依是浦方一統に困窮仕躰に御座候。乍然田地養は、去年之干鯛今年に越申候。越後浦よりも参り申に付、當時養に指問申儀も無之由申候。

一、去秋兩御郡共に御用捨免被仰付、何茂難有奉存旨申候。猶更農事情に入候様に十村共の申渡候。去秋一統不作に付引免指除申村々之内難澁仕所々茂有之躰に御座候。

右見分仕候様子、并十村共申聞候趣如此御座候。相廻り候村々之内、非人躰之者相見の不申候。此外兩御郡相替品無御座候。以上。

巳四月七日

名判 朱書 大地新八郎

(朱書。右寛延二年之扣也。充所なしに調、御算用場の一通、御用番の一通。)

能美・石川・河北三御郡荒起以後

一、三御郡村々田地拵九步通に仕、段々小切畦塗植代仕、

山方之分は

一、山方・里方共麥・茶種

一、苗生立。

一、春蠶前方に而未善惡相知不申由、十村共申聞候。

一、畑物蒔植段々仕候由申候。

一、浦方當春

右

巳三月

名判 朱書 國澤太次兵衛

新川御郡 同斷

同 小西喜子云

但、蠶の事は無之

能州四郡 同斷

同 加須屋和左衛門

但、蠶の事は無之候。浦方は内外浦方と有之。

外には、

一、塩方之儀は去年三月廿日迄之出來數と、當三月廿日迄之出來數過分に相増申候。猶更夏中隨分爲致出來様申渡候。

一〇四 改作奉行植付見分之儀書出扣

私儀能州四郡植付爲見分、當月二日罷立、同十七日罷歸申候。

一、奥・口四郡共先月廿五六日頃迄に、おも田・物跡共に植付相仕廻申候。尤山方等所により、物跡之分は當月に懸り申所々も御座候。苗之様子、植蒔等茂無御座宜御座候。一番草取拂、村により二番草取懸り申由、十村共申聞候。見分にも生立宜相見え申候。畑茂只今最中植懸り申候。

一、麥茶種取入、所により少々之不同御座候得共、大方五六歩位之出來に御座候由、十村共申聞候。

一、内外共浦方、當春以來不獵に御座候。但、所により少々充捕申所も御座候得共、一躰不獵之由、十村共申聞候。

一、御塩方之儀、當春以來天氣宜御座候に付、去年只今頃迄之出來とは、大方一倍之圖りに御座候。猶更無油斷爲焼立候様申渡候。右四郡相廻り見分仕候様子、并十村共申聞候趣如此御座候。四郡共去年并當春段々結構被仰付儀に

候間、猶更農事情に入、養手入等丈夫に可仕候。且又前々より申渡候改作御法之儀、急度相守候様於所々、十村并肝煎・組合頭に嚴重に申渡候。相廻申村々、非人躰之者相見え不申、其外御郡方相替品無御座候。以上。

巳巳五月十八日

一〇五 改作奉行草拂見分之儀書出扣

私儀加州三郡草拂爲見分、當月十六日罷立、同廿三日罷歸申候。

一、三郡村々草修理、山方は二番草迄取拂、里方は二番草取仕廻、三番草過半取拂申候。草生之躰、田・畑共一統宜御座候。頃日快天に而一入宜罷成、尤用水指支不申候旨、十村共申聞候。見分に茂、其通に相見え申候。早稻所々穂出揃申候。

一、夏蠶飼、大概七八歩位之出來之由申聞候。

一、浦方不獵之由、十村共申聞候。

右相廻り候村々見分之様子、并に十村共申聞候趣如此御座